



北広島駅西口周辺エリア活性化整備計画（北広島市）

道経連会報 No.280

CONTENTS

巻頭言 ————— 1

「HOKKAIDO WINE VALLEY
キックオフミーティング」開催

2

デジタル人材の育成
～道経連の取り組みの紹介 ——— 10

道経連シンポジウム
「津軽海峡経済圏を創る第二青函
トンネル構想」函館開催 ——— 13

常任理事会レポート ————— 22

会員企業紹介 ————— 23

会員の異動 ————— 28

新会員企業紹介 ————— 30

グループ活動報告 ————— 31

北海道の経済動向 ————— 36

人事・労務相談日 ————— 38

道経連カレンダー ————— 39

わがまち紹介（シリーズ50） — 40



北海道経済連合会 常任理事

二階堂 恭仁

北海道中央バス(株)
代表取締役社長

小樽天狗山

ある集計によると、全国に「天狗山」と称する山は48か所あり、北海道内にも11山あるそうで、“天狗”という名称は比較的多く使用されているようだ。これは過去から、山をご神体とする信仰と、また天狗が棲みつきそうな神聖な場所への畏敬の念等の影響があるのかもしれない。今回ご紹介する小樽天狗山も“山中に天狗火(火や煙など)が見え、天狗が棲んでいる”とか“山や岩の形が天狗に似ていた”等様々な謂れがあり、その由来は判然としないものの地元においてこの名称は定着している。

この小樽天狗山、標高が532メートルで札幌藻岩山より1メートル高いのだが、山頂は森林の中に隠れている。もともと小樽市がこの山を国から借り受け、市民スキー場として開設してい



小樽港から見た天狗山全景

た。冬季国体の会場としても使用され、全国高校総体で何度も優勝している地元の高校スキー部の練習場でもあり、オリンピック選手を数多く輩出している。

このスキー場を引き継ぎ、再整備も含め、通年利用できる観光施設として、当社が昭和54年から事業に着手した。世界的に見ても海との距離がこれほど近いスキー場はめずらしく、街の中心部から公共交通の路線バスを利用しても20分ほどで山麓にたどり着ける。山麓から山頂部までロープウェイが運行しており、山頂駅に隣接して展望レストハウスがある。その中には、TENGUU CAFÉや、全国から収集した天狗の面を展示している「天狗の館」、小樽のスキーの歴史を中心に、スキー道具等を展示している「スキー資料館」があるほか、屋外には夏の期間に利用できるレジャーアイテムを取り入れている。

またこの山全体が過去から信仰の場となっており、山中には四国八十八箇所を模した巡礼の霊場や石碑等があり、いわゆる「パワースポット」となっている。

その中でも、古くから「佐田彦大神」の石碑が立っており、「佐田彦」は「猿田彦」の別名とされていることから、交通事業を営む当社は交通安全の守り神として昭和57年に天狗山神社を創建し、伊勢神宮神域にある猿田彦神社から御分霊を賜り「小樽天狗山神社」のご神体とさせていただいた。このような経緯を考えると、天狗そのものが猿田彦の化身と言われていることから、この山の名称も自然とそのようになったのかもしれない。

このような歴史を有する小樽天狗山だが、山頂にある各展望台からの眺望は「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に一つ星として掲載され、石狩湾を中心に増毛連山から積丹岬まで、弧を描く水平線とともに見られる景観は目を見張るものがある。特にここからの小樽市内の夜景は“北海道三大夜景”の一つとされている(他の



小樽天狗山神社

2か所は札幌藻岩山と函館山)。

現在は国内外に人気の観光スポットとして、自慢の眺望をゆったりと楽しめる屋外テラス席を昨年設置、さらに今年は、天狗さんながら小樽の街並みをバックに滑空するジップラインや熱気球などのアクティビティも加えて、家族連れだけでなく、若いお客様にも楽しんでいただいている。

小樽に来られた際は、水辺(運河や港、水族館)だけでなく、少しだけ足を延ばし天狗山にも立ち寄ってくださると必ず新たな発見をしていただけたと思う。



山頂からの眺望をバックにジップラインを楽しむ